

ビームライン・実験装置 評定票

	BL-16A		
	1.5		
	A X B A1 c		

ビームラインの性能等について

		3
		2
		3
	PF X PF	
	16A1 16A2 16A2 6	

実験手法のビームラインとの適合性・研究成果について

※1：光源、ビームライン光学系と研究手法は適合しているか。

手法 a	適合性 (※1)	5. 最適
	研究成果	5. 極めて高い
手法 b	適合性 (※1)	4. 適切
	研究成果	4. 高い
手法 c	適合性 (※1)	5. 最適 4. 適切 3. 妥当 2. やや不適 1. 不適
	研究成果	5 極めて高い 4. 高い 3. 妥当 2. やや低い 1. 低い
総合評価	研究成果	5 極めて高い
	世界の状況と比較しての評価、ビームライン性能が律速となっている場合はその指摘	<ul style="list-style-type: none"> PF で一番強度が強いビームラインということで、すぐれた研究が行われているが、利用時間が制限されている。 ビームタイムの混雑が緩和され、落ち着いた研究ができるとよい。 PF で一番強度が強いビームラインと云うことだが、挿入光源の利用が望まれる研究分野は他にも多い。挿入光源の増設は、施設の戦略に関わる大きな問題である。 共鳴 X 線散乱にはマルチポール・ウイグラーよりアンジュレータが適しているか。

実験装置の性能等について

使用している実験装置名(a)	6 軸回折計
適切に保守、改善されて、本来あるべき性能を發揮しているか	5 フル性能を發揮
取扱は容易か	5. 容易
取扱説明書は整備されているか	4. やや充実
性能、仕様等で特記すべき点	<ul style="list-style-type: none"> 標準的な HUBER の 6 軸回折計であり、その性能は十分に生かされている。 様々な極限下での実験に対応できるように、実験アクセサリ類が充実している。
改良・改善すべき点	

使用している実験装置名(c)	
適切に保守、改善されて、本来あるべき性能を發揮しているか	5 フル性能を發揮 4 ほぼ性能を發揮 3 まあ性能を發揮 2 改善の余地あり 1 改善が必須
取扱は容易か	5. 容易 4. やや容易 3. 普通 2. やや難 1. 難
取扱説明書は整備されているか	5. 充実 4. やや充実 3. 普通 2. やや不足 1. ない
性能、仕様等で特記すべき点	
改良・改善すべき点	

使用している実験装置名(b)	ユーザーの持ち込み
適切に保守、改善されて、本来あるべき性能を發揮しているか	5 フル性能を發揮 4 ほぼ性能を發揮 3 まあ性能を發揮 2 改善の余地あり 1 改善が必須
取扱は容易か	5. 容易 4. やや容易 3. 普通 2. やや難 1. 難
取扱説明書は整備されているか	5. 充実 4. やや充実 3. 普通 2. やや不足 1. ない
性能、仕様等で特記すべき点	
改良・改善すべき点	

今後のビームラインのあり方について

今後の計画の妥当性について	<ul style="list-style-type: none"> ビームラインの利用と言う意味では、十二分に利用している。今後の研究の発展という意味では、ビームラインの改良や他のビームラインの利用が考えられる。 多極限下での実験をより進めるには、付属品の整備および改良研究が必要となる。 いずれにしても、人手不足は否めない。今後の構造物性研究の発展には、PF で当分野の研究を推し進めるメンバーのグループの形成が望まれる。
今後 5 年間に	高い優先度で 予算投入 <u>余裕があれば 予算投入</u>
その他今後の計画に付いての意見	<ul style="list-style-type: none"> 方法論としてはほぼ確立している。物性研究の興味から多くのユーザの利用が期待される。また様々な物質が研究対象となるであろう。 放射光の偏光特性を積極的に利用する試みも重要である。 偏向電磁石とアンジュレータの光源の使い分けが必要になる。 研究グループの形成は研究体制に関わる重要な問題。 強相関電子系物質の研究に大きく貢献している。